

1-3-13-4 松泰寺の歴史

〈延宝 8 年 (1680)〉

金森 6 代頼時（頼峯）が、東照宮の別当として美濃国赤坂（現在大垣市）にある真言宗智積院派の古刹、金生山明星輪寺宝光院の僧法印堯因を呼んで清鏡寺跡を修復し、一寺を勧請したのが松泰寺であります。この年頼時は 12 才、僧堯因は 24 才であったといわれています。寺号は明星輪寺宝光院末東耀山松泰寺宝珠院といえます。

松泰寺第 1 世住職は権大僧都法印堯因といい、高山修験頭（山伏修験者の頭）大乘院（大乘院は一本杉白山のことか）2 世長風の子であったといわれています。

〈元禄 5 年 (1692)〉

金森頼時が山形県上山（山形県上山市）へ国替となり、東照宮もいっしょに移ったため、松泰寺は高山御役所（陣屋）の鎮守稻荷の別当を務めることになりました。

〈宝暦 8 年 (1758)〉

上山から、更に郡上八幡へ国替された金森は、改易（身分を奪われ、領地、家屋敷をとりあげられた）となり、東照宮は再び西之一色へ戻ることになりました。

〈文化 10 年 (1813)〉

桜山八幡神社の別当、長久寺良賢が松泰寺第 9 世を兼務することになり、荒廃してしまった東照宮の社殿修復を榊原郡代に働きかけ、又松泰寺を金 50 両で長久寺持としたことなど努力しましたが、こころざし半ばにして死亡しました。（享年 32 才）

〈文化 14 年 (1817)〉

良賢のねがいは、芝郡代に引きつがれ、東照宮の移転修復が進みますが、松泰寺は金 50 両で赤坂宝光院を離脱し独立します。

〈文政元年 (1818)〉

東照宮の移転修復工事が完成します。

〈文政 13 年 (1830)〉

八幡長久寺との兼帯をやめ、両寺に住職を復活し、第 11 世を良典が務めることになりました。

〈天保 3 年 (1832)〉

第 12 世寛全房堯深のとき、金 100 両で、長久寺より離れることになりました。

〈天保 11 年 (1840)〉

住職が居なくなったため、国分寺と長久寺が 1 ヶ月交替の輪番で寺を守ったといえます。

〈明治 2 年 (1869)〉

明治維新で、神佛混交が禁止（神佛分離令）され、それまで高山町会所が世話役を務

めた東照宮と松泰寺が西之一色村へ引き渡されました。その後、神道を重くみる世相の中で松泰寺は廃寺となり、佛像、佛具は近在の真言寺へ四散してしまい、いまでは東照宮にわずかの経典、古文書類が残されるのみとなりました。

松泰寺の面影を残すものは、東照宮社務所客殿、内神殿の黒塗りの上がり^{かまち} 框、稲荷社（元東照宮の本地堂・護摩堂）であったといわれています。金龍神社の神門は、元松泰寺の山門で、現社務所前の松の木の下にありました。玄興寺本堂の軒先にかけてある^{かんしょう} 喚鐘の銘文に、松泰寺をみることもできます。

* 高山市教育長石原哲弥が松泰寺第 4 世住職権大僧都法印堯光(ごんだいそうずほういんぎょうこう)の書き残した「東耀山松泰寺宝珠院代々記」など東照宮に保存されている古文書を整理して上記をまとめた。

<旧松泰寺墓地>

旧松泰寺開山法印堯因をはじめ歴代（5代まで）住職の墓が残っており、第8代飛驒代官幸田善太夫高成の墓もある。